

2026年度

講義概要

[精神保健福祉学科]

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
医学概論		講義	伊藤 知美
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士にとって重要な医療職種との連携により実のある多職種協働を目指すため、医学に関する基本的知識を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 心身の構造と機能、頻度の高い疾患や障害について、リハビリテーション、国債機能分類、健康のとりえ方について、等。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 医学一般の基礎の理解と臨床への活用の導入。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	人の成長・発達(1) 身体・精神の成長・発達		
2	人の成長・発達(2) 老化		
3	心身機能と身体構造の概要(1) 人体部位の名称		
4	心身機能と身体構造の概要(2) 各器官等の構造と機能①		
5	心身機能と身体構造の概要(3) 各器官等の構造と機能②		
6	疾病の概要(1) 生活習慣病、悪性腫瘍、他		
7	疾病の概要(2) 循環器、消化器、呼吸器疾患、他		
8	疾病の概要(3) 神経・精神疾患、泌尿器疾患、他		
9	障害の概要(1) 感覚器の障害		
10	障害の概要(2) 肢体不自由、内部障害、他		
11	障害の概要(3) 発達障害、認知症、他		
12	リハビリテーションの概要		
13	ICFの基本的考え方と概要		
14	健康のとりえ方		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座1 医学概論 (中央法規出版)		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
心理学と心理的支援		講義	森 明美
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	後 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①心理学的理論による人の理解とその技法の基礎、②人の成長・発達と心理との関係、③日常生活と心の健康との関係、④心理的支援の方法と実際、について概要を理解し、対人援助場面で利用できるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>授業を通して、自分自身を含め人間の心理的側面を理解できるように、より具体的に学習していく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>人を支援するために必要不可欠な心理学の知識を習得し、現場で生かせるようにする。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	心理学の歴史と対象		
2	生物学的基盤 感情		
3	動機づけ 欲求		
4	感覚・知覚		
5	学習・行動		
6	認知		
7	知能・パーソナリティ		
8	社会の中での心理(1)		
9	社会の中での心理(2)		
10	発達(1)		
11	発達(2)		
12	日常生活と心の健康		
13	心理アセスメント		
14	心理療法		
15	ソーシャルワークと心理学		
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援 (中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>確認小テスト、および定期試験</p>	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
社会学と社会システム		講義	馬場 学
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	後 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>①社会理論による現代社会の捉え方、②家族社会・家族生活、③人と社会の関係、④社会問題、について概要を理解させるとともに、障がい者を援助するための知識の習得である。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>社会学という広範囲を表面的に理解するだけでなく、あらゆる角度からの視点に立って学習することにより、障がい者だけでなく、社会全体と人間という成員のあり方・構造が理解できるように組み立ててある。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>障がい者を支援する援助者には必要不可欠な社会学。支援を必要としている者が社会の中でどのような位置に存在し、社会が何を求め、障がい者をどう扱いたいのかを客観的に見つけことができる精神保健福祉士として成長してもらいたい。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	現代社会の理解(1) 社会変動 ～近代の社会学史～		
2	現代社会の理解(2) 個人と集団(第一次集団・ゲマインシャフト・コミュニティ、など)		
3	現代社会の理解(3) 社会変動と社会意識(グローバル化・情報化・大衆化、など)		
4	現代社会の理解(4) 社会政策と社会福祉(政策・計画・指標・調査、など)		
5	生活の理解(1) 家族の構造的特質(制度・世帯・出生・離婚、など)		
6	生活の理解(2) 家族の機能的特質(役割・家族の個人化、など)		
7	生活の理解(3) 生活での変化①(人口・職業観・企業組織、など)		
8	生活の理解(4) 生活での変化②(ライフサイクル・QOL、など)		
9	生活の理解(5) ジェンダーの歴史と現在の状況		
10	生活の理解(6) ジェンダーでの諸問題(セクシャルハラスメント、等)		
11	人と社会の関係(1) 都市化と過疎化(シカゴ学派・日本における過疎問題、など)		
12	人と社会の関係(2) 地域社会の社会集団と組織(町内会・ネットワークキング、など)		
13	社会問題の理解(1) 発展にともなう社会的問題点①(環境問題・DV・差別、など)		
14	社会問題の理解(2) 発展にともなう社会的問題点②(ニート・医療逸脱行動・自殺、など)		
15	社会問題の理解(3) 社会問題の認識(社会運動・NPO法人、など)		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び+A1:N24基準]	
最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム (中央法規出版)		(試験やレポートの評価基準など) 確認小テスト、および定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
社会福祉の原理と政策		講義	伊藤 則生
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年(前期・後期)	必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>戦後70余年、今、最も重要な意味を持つ福祉国家の理念。国民だれもが安心して暮らすことができるよう目指してきたこれまでの福祉哲学や理念、政策等を学び、この基盤の上に、これからのあるべき姿を探し求める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>だれにとっても暮らしやすい社会の仕組みを作り上げるための福祉政策・制度のあり方を求めて、社会福祉の史的展開、福祉の原理をめぐる理論・哲学、あるべき相談援助等、社会福祉の全体を見渡しながら学んでいく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>クライアントの自立を支援するために、社会福祉全体を見極め、自らの役割を果たすことのできるソーシャルワーカーを目指す。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	現代社会における福祉制度と福祉施策①(概念と理念)		
2	現代社会における福祉制度と福祉政策②(福祉政策の主体と対象)		
3	福祉の原理をめぐる理論と哲学(理論と哲学、「公共性」と「公共的相互性」)		
4	福祉政策の理論と実際(社会政策と福祉政策)		
5	福祉制度の発達過程①(前近代社会と福祉)		
6	福祉制度の発達過程②(近代社会と福祉)		
7	福祉制度の発達過程③(現代社会と福祉)		
8	福祉政策におけるニーズと資源(需要とニーズの概念、資源の概念)		
9	福祉政策の課題①(福祉政策と社会問題)		
10	福祉政策の課題②(福祉政策の現代的課題)		
11	福祉政策の課題③(福祉政策の課題と国際比較)		
12	福祉政策の構成要素①(福祉政策の論点)		
13	福祉政策の構成要素②(政策における政府の役割<その1>)		
14	福祉政策の構成要素③(福祉政策における政府の役割<その2>)		
15	福祉政策の構成要素④(福祉政策における市場の役割)		
16	福祉政策の構成要素⑤(福祉政策における国民の役割)		
17	福祉政策の構成要素⑥(福祉政策の手法と政策決定過程・評価)		
18	福祉政策の構成要素⑦(福祉の供給部門)		
19	福祉政策の構成要素⑧(福祉の供給過程)		
20	福祉政策の構成要素⑨(福祉サービスの利用と過程)		

21	福祉政策の関連領域①(福祉政策と教育政策)		
22	福祉政策の関連領域②(福祉政策と住宅政策)		
23	福祉政策の関連領域③(福祉政策と労働政策)		
24	福祉政策の関連領域④(人権擁護と福祉政策)		
25	相談援助活動と福祉政策①(相談援助の視点と方法)		
26	相談援助活動と福祉政策②(地域福祉への展開)		
27	福祉政策の国際比較(欧米諸国の福祉政策)		
28	福祉政策の国際比較(東アジア諸国の福祉政策)		
29	福祉政策の課題と展望①(現代社会の変化と福祉政策)		
30	福祉政策の課題と展望②(包摂的福祉政策への展開)		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="188 763 823 976"> <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策 (中央法規出版)</p> </td> <td data-bbox="823 763 1461 976"> <p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験・課題レポートの提出</p> </td> </tr> </table>		<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験・課題レポートの提出</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座4 社会福祉の原理と政策 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験・課題レポートの提出</p>		

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
社会福祉調査の基礎		講義	増谷 千晶
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	後 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 複雑化していく社会における福祉的課題を見つける、あるいはソーシャルワーク実践を振り返るためにも必要なソーシャルワーク・リサーチを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会福祉調査の意義と目的を理解し、必要な倫理的配慮などを学ぶ。また社会調査のデザインを理解し、量的調査と質的調査の具体的な方法や評価の意義を考える。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 社会調査の意義から具体的な調査の組み立て方、調査方法、実施方法及び評価の仕方を理解し、実践において地域社会の課題を提案できるようにする。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	社会調査とは		
2	福祉サービスと社会福祉調査		
3	社会福祉調査における倫理と個人情報		
4	社会福祉調査の目的と対照		
5	データ収集と分析		
6	量的調査の概要		
7	量的調査の種類と方法		
8	質問紙の作成方法		
9	集計と分析		
10	質的調査の概要		
11	観察法・面接法		
12	質的調査における記録方法		
13	データの分析方法		
14	ソーシャルワークにおける評価		
15	まとめ・補足		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座5 社会福祉調査の基礎 (中央法規出版)		(試験やレポートの評価基準など) 定期試験	
その他 適宜資料を配布			

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
地域福祉と包括的支援体制		講 義	伊藤則生 門前典男
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年 (前期 ・ 後期)	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 1990年代後半に始まった「社会福祉基礎構造改革」は、新しい時代の社会福祉の姿を示すものとなった。その中で、福祉サービス利用者の自立生活を支援する「地域福祉」は、社会福祉のメインストリームとして位置づけられた。 授業では、「地域福祉」の具体的な活動や手法を 実践例を交えながら学習する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地域福祉の基本的な考え方、地域福祉の歴史、地域福祉の推進主体、地域福祉行財政システムについて学び、誰もが安心してその人らしく暮らし続けられる「地域共生社会」を目指して学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 地域共生社会の実現を目指すコミュニティソーシャルワーカーとしての 活動基盤を習得する。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 (地域社会の概念と理論)		
2	地域社会の変化と多様化・複雑化した地域生活課題 (地域生活課題の現状)		
3	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 (地域包括ケアシステムの展開)		
4	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 (生活困窮者自立支援の考え方)		
5	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 (「ニッポン一億総活躍社会」での地域共生社会)		
6	地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制 (地域共生社会の実現に向けた各種施策)		
7	地域福祉ガバナンスと多機関協働 (複雑化する地域生活課題と多機関協働の重要性)		
8	地域福祉ガバナンスと多機関協働 (保健・福祉・医療にかかわる多職種連携)		
9	地域福祉の概念と理論化をめぐる変遷		
10	地域福祉の歴史 (地域福祉の源流とコミュニティケアの移入)		
11	地域福祉の歴史 (地域共生社会の構築に向けた地域福祉の政策化)		
12	地域福祉の推進主体(地域住民・民間組織・地方自治体)		
13	地域福祉の推進主体 (社会福祉協議会、社会福祉法人、民生委員、NPO法人)		
14	地域を基盤としたソーシャルワーク (概念と求められる背景)		
15	地域を基盤としたソーシャルワーク (住民の主体形成に向けたアプローチ)		
16	社会福祉の歴史の変遷等について (I)		
17	社会福祉の歴史の変遷等について (II)		
18	社会福祉の法制度の展開、福祉計画の概要について		

19	福祉行政と組織と専門職の役割(行政の資格、福祉行政の組織と役割)、 国、地方自治体、専門機関、地方分権及び社会福祉関係法の法制度について (Ⅰ)		
20	福祉行政と組織と専門職の役割(行政の資格、福祉行政の組織と役割)、 国、地方自治体、専門機関、地方分権及び社会福祉関係法の法制度について (Ⅱ)		
21	福祉財政及び民間社会福祉事業の財政等について (Ⅰ)		
22	福祉財政及び民間社会福祉事業の財政等について (Ⅱ)		
23	福祉計画の目的と意義について		
24	福祉計画の理論と技法等について		
25	老人福祉計画・介護保険事業計画について		
26	障害者計画・障害福祉計画について		
27	次世代育成支援行動計画について		
28	地域福祉計画について、その他 (子どもの貧困対策計画、自殺対策計画、健康増進法等)、最近の福祉行政計画などについて		
29	介護保険法、福祉計画の過程における技法・などについて		
30	災害時や災害時における法制度		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="181 891 823 1095"> <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制 (中央法規出版)</p> </td> <td data-bbox="823 891 1461 1095"> <p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 小テスト・定期試験</p> </td> </tr> </table>		<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 小テスト・定期試験</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 6 地域福祉と包括的支援体制 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 小テスト・定期試験</p>		

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
社会保障		講義	伊藤 則生
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年(前期・後期)	必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>現代社会における少子高齢化の一層の進展にともない、喫緊の課題として社会保障制度のあり方が問われる。社会保障の理念やその対象の歴史的背景を含め、現行の社会保障制度の体系と概要、公的保険制度と民間保険制度の役割分担、諸外国における社会保障制度の取り組み等を研究し、山積する諸問題を的確に把握する基礎を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人口減少社会において、人口が減っても成長力を維持する社会つくるための 社会保障制度が求められている。公的年金制度・医療保険制度・育児休業制度を中心に社会保障の制度・政策を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>ソーシャルワーカーとして活躍するために、社会保障制度・政策を熟知することが必要であり、さらに適切な社会資源を作り出す力を身につけることを目標とする。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	現代社会と社会保障 ① (人口動態の変化、少子高齢化)		
2	現代社会と社会保障 ② (労働環境の変化)		
3	社会保障の概念や対象およびその理念 ① (社会保障の概念と範囲)		
4	社会保障の概念や対象およびその理念 ② (社会保障の役割と意義)		
5	社会保障の概念や対象およびその理念 ③ (社会保障の理念)		
6	社会保障の概念や対象およびその理念 ④ (社会保障の対象)		
7	社会保障の概念や対象およびその理念 ⑤ (社会保障制度の展開)		
8	社会保障の財源と費用 ①	(社会保障の財源)	
9	社会保障の財源と費用 ②	(社会保障給付費)	
10	社会保障の財源と費用 ③	(国民負担率)	
11	社会保険と社会扶助の関係 ①	(社会保険の概念と範囲)	
12	社会保険と社会扶助の関係 ②	(社会扶助の概念と範囲)	
13	公的保険制度と民間保険制度の関係 (公的施策と民間保険の現状)		
14	社会保障制度の体系 ① (医療保険制度の概要と沿革)		
15	社会保障制度の体系 ② (公的医療保険の種類)		
16	社会保障制度の体系 ③ (医療保険給付の種類と内容)		
17	社会保障制度の体系 ④ (日本の医療制度の特徴)		
18	社会保障制度の体系 ⑤ (介護保険制度の概要と沿革)		

19	社会保障制度の体系 ⑥	(年金制度の概要と沿革)
20	社会保障制度の体系 ⑦	(年金の加入と負担)
21	社会保障制度の体系 ⑧	(年金の給付・老齢年金)
22	社会保障制度の体系 ⑨	(年金の給付・障害年金、遺族年金)
23	年金保険制度の具体的内容 ①	(国民年金)
24	年金保険制度の具体的内容 ②	(厚生年金)
25	年金保険制度の具体的内容 ③	(各種共済組合の年金)
26	医療保険制度の具体的内容 ①	(国民健康保険)
27	医療保険制度の具体的内容 ②	(健康保険)
28	医療保険制度の具体的内容 ③	(各種共済組合の医療保険)
29	諸外国における社会保障制度の概要	(先進諸国における社会保障制度<その1>)
30	諸外国における社会保障制度の概要	(先進諸国における社会保障制度<その2>)
<p>[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座7 社会保障 (中央法規出版)</p>		<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験・課題レポートの提出</p>

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者	実務経験の有無
障害者福祉	講義	野浪 実穂	有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 今日の社会福祉法制度において、障害をもつ人やその家族を理解するとともに、彼等を支援する機関と専門職が、どのような立場におかれているかを理解する。障害をもつ人の自立や社会参加を支援するための障害保健福祉施策の中核となる障害者総合支援法について知識を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 障害をもつ人を取り巻く制度や支援における理念が、どのような歴史的経過を経て誕生し、今日に至るかを知り、障害者福祉制度の発展過程について理解する。 今日の障害者を取り巻く社会情勢や生活の実態と障害者総合支援法を中心としたその支援について理解を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 相談活動で必要となる様々な法律や制度を理解する。総合支援法における利用者中心の考え方、利用者の多様性や個別性の尊重、利用者の受容など、基本的な考え方を身につける。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	障害者の定義と特性 国際生活機能分類(ICF)		
2	障害者福祉の理念		
3	障害者の生活実態		
4	障害者総合支援法1 成立過程と概要		
5	障害者総合支援法2 支給決定プロセスと、サービスの類型		
6	障害者総合支援法3 組織及び団体の役割		
7	障害者総合支援法4 専門職の役割と業務		
8	障害者総合支援法5 相談支援事業所の役割と実際		
9	児童福祉法		
10	障害者基本法		
11	身体障害者福祉法 知的障害者福祉法		
12	障害者虐待防止法		
13	障害者差別解消法		
14	障害者雇用促進法		
15	全体のまとめ・模擬問題		
[使用テキスト・参考文献] 最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座8 障害者福祉 (中央法規出版) その他 適宜資料を配布		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
権利擁護を支える法制度		講義	野浪 実穂
実務経験の有無		有	
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	後 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 相談援助活動の土台となる法律について概観し、憲法の基本原理を理解する。特に精神保健福祉士の業務には欠かせない成年後見制度等を理解し、実際の権利擁護活動についても知識を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 法律の基本的な知識を理解し、日本国憲法、民法、行政法といった援助活動に関連した法律内容を知る。また、実践で必要となる、成年後見制度、日常生活自立支援事業等の権利擁護活動の理念を理解し、利用方法や利用過程を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 法の重要性、読み取り方を理解する。援助者として、相手の立場に立って考えることのできる鋭い人権感覚を身につけ、成年後見制度等の利用過程を知る。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	日本国憲法		
2	行政法①		
3	行政法②		
4	行政法③		
5	民法① 契約・不法行為		
6	クーリングオフ制度		
7	民法② 夫婦・親族・親子		
8	民法③ 養子・相続		
9	民法④ 遺言		
10	成年後見制度①		
11	成年後見制度②・任意後見制度		
12	日常生活自立支援事業		
13	成年後見制度利用支援事業		
14	権利擁護にかかわる組織・団体の役割と活動の実際		
15	まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度 (中央法規出版) その他 適宜資料を配布		(試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
刑事司法と福祉		講義	増谷 千晶
実務経験の有無	無		
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 刑事司法の基礎を学び、ソーシャルワークの専門性を必要とする更生保護制度、精神保健福祉士の視点や知識を必要とする医療観察法制度での専門職の役割などを知る。そして刑事司法の中の福祉のあり方を考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 歴史を踏まえ、刑事司法、少年司法、更生保護制度、医療観察法の内容や手続きの過程などを学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 司法制度の詳細を学び、その中での福祉職の意義や役割などを理解する。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	刑事罰制度の歴史・刑罰の種類と適用		
2	刑事手続き・重要な原則・成立要件と責任能力		
3	少年法・少年保護手続き		
4	少年司法制度上の処分		
5	施設内処遇(成人)		
6	施設内処遇(少年)		
7	更生保護制度の概要		
8	更生保護の実際		
9	医療観察法		
10	社会復帰調整官の役割		
11	司法と福祉の連携		
12	アディクションを抱える人と刑事司法		
13	犯罪被害者等支援に関する制度		
14	犯罪被害者等支援にあたっての考え方		
15	まとめ・補足		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座10 刑事司法と福祉 (中央法規出版)		(試験やレポートの評価基準など) 定期試験	
その他 適宜資料を配布			

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
ソーシャルワークの基盤と専門職		講義	山口 泰臣
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士の役割(総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む。)と意義について理解する。 社会福祉士の役割と意義について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 精神保健福祉士の役割と意義について理解し、相談援助の基礎理論を学ぶ 相談援助の概念と範囲を理解し、社会福祉士の役割と意義、相談援助の理念を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉分野での精神保健福祉士の役割と相談援助活動について学び、その専門性を理解する</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	ソーシャルワーク専門職への理解		
2	社会福祉士・精神保健福祉士の専門性		
3	ソーシャルワーカーのコンピテンシー		
4	ソーシャルワークのグローバル定義		
5	ソーシャルワークの原理		
6	当事者主体とは		
7	ソーシャルワークの形成過程		
8	ソーシャルワークの発展(日本におけるソーシャルワーク)		
9	精神保健福祉士の倫理		
10	倫理的ジレンマ		
11	社会福祉士の職域など		
12	多様な組織・機関における専門職		
13	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク		
14	ジェネラリスト・ソーシャルワーク①		
15	ジェネラリスト・ソーシャルワーク②		
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・社会福祉士 精神保健福祉士養成講座 11 ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)		(試験やレポートの評価基準など)	
(中央法規出版)		定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) ソーシャルワークの理論と方法 (共通科目)		授業の種類 講義	授業担当者 森 明美
			実務経験の有無 有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	前 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] ソーシャルワークの基本的な理論、ソーシャルワークの展開過程、実践モデルについて学び、様々な利用者を理解し支援につなげていく知識、技術を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 共生社会の実現を推進する我が国の社会福祉・社会保障施策の潮流の中、期待されるソーシャルワーク専門職として必要なソーシャルワーク実践の基盤となるソーシャルワーク諸理論、ソーシャルワーク過程および実践モデル、実践を豊かに展開するための方法を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ソーシャルワーク実践に必要な知識を身につけ、利用者を理解し、実際の支援に場面で利用することができる。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク①		
2	人と環境の交互作用に関する理論とソーシャルワーク②		
3	ソーシャルワークの過程①ケースの発見		
4	ソーシャルワークの過程②インテーク		
5	ソーシャルワークの過程③アセスメント		
6	ソーシャルワークの過程④アセスメント		
7	ソーシャルワークの過程⑤アセスメント		
8	ソーシャルワークの過程⑥プランニング		
9	ソーシャルワークの過程⑦プランニング		
10	ソーシャルワークの過程⑧支援の実施		
11	ソーシャルワークの過程⑨モニタリング		
12	ソーシャルワークの過程⑩終結 アフターケア		
13	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①		
14	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②		
15	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③		
16	ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④		
17	ソーシャルワークの面接①		
18	ソーシャルワークの面接②		
19	ソーシャルワークの記録①		

20	ソーシャルワークの記録②		
21	ケアマネジメント①		
22	ケアマネジメント②		
23	グループを活用した支援①		
24	グループを活用した支援②		
25	コミュニティワーク①		
26	コミュニティワーク②		
27	ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクション		
28	スーパービジョン①		
29	スーパービジョン②		
30	コンサルテーション		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="193 831 826 1039"> <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) (中央法規出版)</p> </td> <td data-bbox="826 831 1461 1039"> <p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p> </td> </tr> </table>		<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・社会福祉士 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目) (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p>		

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
ソーシャルワーク演習(共通)		演習	増谷千晶・野浪実穂 森明美・山口泰臣
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
15回	30時間	前 期	有
<p>[授業の目的・ねらい] ソーシャルワーカーに求められる相談援助に関わる基礎的な知識と技術について、実技を通して実践的に習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 自己覚知を含めて、面接に必要とされるコミュニケーション技術、記録技術、地域調査、アセスメント等について実技を通して学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ソーシャルワーク実習時の情報収集、アセスメントをし、記録にまとめることができる。あわせて地域福祉の基盤整備と開発にかかわる事柄についても理解している。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	自己理解と他者理解		
2	援助者としての自己理解		
3	多様性への気づき		
4	記録の技術 基本的な技法の習得		
5	専門職の価値と倫理		
6	ソーシャルワーカーの視点から生活を理解する 社会資源についての情報収集		
7	価値葛藤への理解		
8	クライアントを理解する		
9	面接の技術 面接を取り巻く環境への理解		
10	記録に用いられる文体の理解		
11	コミュニケーション技法の演習		
12	フェイスシートの書き方		
13	アクティブリスニング ソーシャルワーカーの面接姿勢		
14	ソーシャルワーカーの実践からの学び		
15	ロールプレイ ソーシャルワーカーとしての実践		
[使用テキスト・参考文献] 特に指定しない。		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート、演習の活動内容	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神医学と精神医療		講義	深津 尚史
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年 (前期・後期)	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 精神医学の概要及び精神障害・治療法の概要について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 脳・神経の知識、代表的な精神障害とその診断法及び治療法について学習する。精神医療に関する理念・問題点や必要な思考方法について学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 福祉、臨床の現場において、知識の活用や必要な検索が出来るようになること。国家試験で要請される程度の知識を十分に獲得すること。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神医学・医療の歴史と現状		
2	精神現象の生物学的基礎・こころの理解		
3	精神障害の概念、精神疾患の成因と分類		
4	精神症状と状態像		
5	診断の手順と方法、心理的検査と身体的検査		
6	器質性精神障害 認知症 その1		
7	器質性精神障害 認知症 その2		
8	てんかん		
9	症状性精神障害		
10	精神作用物質使用による精神及び行動の障害		
11	統合失調症 その1		
12	統合失調症 その2		
13	気分障害 その1		
14	気分障害 その2		
15	前期試験の解説		
16	不安性障害・強迫性障害		
17	ストレス関連障害・PTSD		
18	解離性障害・身体化障害・心身症		
19	摂食障害		

20	睡眠障害		
21	パーソナリティ障害		
22	発達障害 その1 (精神遅滞)		
23	発達障害 その2 (自閉スペクトラム症)		
24	発達障害 その3 (多動性障害・発達性トラウマ障害)		
25	発達障害 その4 (学習障害など)		
26	薬物療法		
27	精神療法		
28	精神保健福祉法		
29	後期テスト解説		
30	総復習		
<table border="1"> <tr> <td> <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療 (中央法規出版)</p> </td> <td> <p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p> </td> </tr> </table>		<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p>		

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
現代の精神保健の課題と支援		講義	杉原 直樹
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年 (前期・後期)	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 現代社会における個人のライフサイクルや社会環境(学校、職場、世界等)における精神保健的諸課題と精神保健の実践および精神保健福祉士の役割等について学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 精神保健福祉の現状を知り、それらの関係者の連携方法を熟知し、支援のための知識を獲得する。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神保健の概要①		
2	精神保健の概要②		
3	現代の精神保健分野の動向と基本的な考え方①		
4	現代の精神保健分野の動向と基本的な考え方②		
5	家族に関連する精神保健の課題と支援①		
6	家族に関連する精神保健の課題と支援②		
7	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①		
8	精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ②		
9	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ①		
10	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ②		
11	精神保健の視点からみた勤労者の課題とアプローチ③		
12	精神の健康と関連する要因及び精神保健の概要まとめ		
13	精神保健の視点からみた家族・学校教育・勤労者の課題とアプローチまとめ①		
14	精神保健の視点からみた家族・学校教育・勤労者の課題とアプローチまとめ②		
15	前期まとめ(精神の健康と関連する要因及び精神保健の概要、家族、学校教育、勤労者の課題とアプローチ)		
16	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ①		
17	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ②		
18	精神保健に関する発生予防と対策/精神保健福祉士の役割①		
19	精神保健に関する発生予防と対策/精神保健福祉士の役割②		

20	精神保健に関する発生予防と対策／精神保健福祉士の役割③	
21	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題①	
22	地域精神保健に関する偏見・差物等の課題②	
23	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携①	
24	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携②	
25	精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割および連携③	
26	諸外国の精神保健活動の現状および対策①	
27	諸外国の精神保健活動の現状および対策②	
28	精神保健に関する課題と対策、精神保健福祉士の役割のまとめ	
29	行政、団体等の役割と連携、諸外国の現状と対策まとめ	
30	後期まとめ(精神保健に関する対策と精神保健福祉士の役割、各機関の役割と連携)	
	<p>[使用テキスト・参考文献] 最新・精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験</p>

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神障害リハビリテーション論		講義	野浪 実穂 他講師
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	通年(前期・後期)	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 社会の変化に対応するために求められるようになった精神障害リハビリテーションと、拡大する精神保健福祉士の役割について学習する。精神障害リハビリテーションの理念・方法を学び、ソーシャルワークと精神障害リハビリテーションの関係を整理する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 精神障害リハビリテーションの理念、定義、基本原則を理解し、展開を学ぶ。精神障害リハビリテーションプログラムの内容と実施機関の実際を現場の精神保健福祉士より学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 制度横断的な知識を有し、適切なアセスメント、支援計画の策定・評価、関係者の連携・調整・資源開発までできるような包括的な相談支援を担える人材となる。</p>			
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神障害リハビリテーションの歴史①		
2	精神障害リハビリテーションの歴史②		
3	精神障害リハビリテーションの構成および展開①		
4	精神障害リハビリテーションの構成および展開②		
5	地域リハビリテーションの意義		
6	社会的リハビリテーションプログラム SST(社会生活技能訓練)①		
7	社会的リハビリテーションプログラム SST(社会生活技能訓練)②		
8	精神障害リハビリテーションプログラム 社会的リハビリテーションプログラム 地域移行プログラム①		
9	精神障害リハビリテーションプログラム 社会的リハビリテーションプログラム 地域移行プログラム②		
10	医学的リハビリテーションプログラム①		
11	医学的リハビリテーションプログラム②		
12	依存症のリハビリテーション①		
13	依存症のリハビリテーション②		
14	社会的リハビリテーションプログラム WRAP①		
15	社会的リハビリテーションプログラム WRAP②		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・精神保健福祉士養成講座3 精神障害リハビリテーション論 (中央法規出版)		(試験やレポートの評価基準など) レポートにより評価	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉制度論		講義	門前典男 野浪実穂
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
15回	30時間	前 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>メンタルヘルス課題を抱えた人々の法制度の体系について理解する。主に精神障害者の医療に関する制度や経済的支援に関する制度の概要と課題を理解する。また、それらの制度に規定されている精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)、心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律(医療観察法)等の医療に関する制度の学習。、生活支援に関する制度、生活保護制度や生活困窮者自立支援制度等の経済的支援に関する制度の学習。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>最新の法制度を知ることにより、個々が、法律の成り立ちや限界および課題について考えたり、今後現場で出会う精神疾患を抱える当事者に適切に制度を活用できるようになることを目指す。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	生活困窮と生活保護制度の概要(1)		
2	生活困窮と生活保護制度の概要(2)		
3	生活困窮者自立支援制度の概要(1)		
4	生活困窮者自立支援制度の概要(2)		
5	低所得者対策－生活福祉資金貸付制度		
6	低所得者対策－居住・生活支援・法律扶助・災害救助など		
7	経済的負担の軽減－心身障害者扶養共済制度など		
8	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割①		
9	精神保健福祉法の概要と精神保健福祉士の役割②		
10	生活支援の基本的な考え方		
11	相談支援制度		
12	居住支援制度		
13	就労支援制度①		
14	就労支援制度②		
15	全体のまとめ・模擬問題		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
最新・精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉制度論 (中央法規出版)		(試験やレポートの評価基準など) 定期試験	

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
精神保健福祉の原理		講義	久保 修
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	通年 (前期・後期)	必 修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>欧米先進国の社会福祉的発展と並行して、我が国の社会福祉を理解する。中でも精神障害に関するソーシャルワークでは、対象者の精神疾患に伴う生活障害、専門的関りを行う精神保健福祉士、そして相談援助支援を行う機関や機能を理解する。また、精神障害者の地域包括支援システム構築については、関係機関及び他職種との連携の在り方についても理解を深めたい。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>「障害」や「障害のある人」について捉え方を言及したうえで、心の病がある人の疾患や障害、生活のしづらさについて学びを深めたい。我が国における障害福祉の歴史的変遷から精神疾患や精神障害がどのような社会的立場に置かれてきたかを知る。また、欧米先進国のアメリカやイタリアを中心に諸外国との比較検討をすることで、より精神疾患や精神障害について知見を深めたい。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>精神障害者の相談援助活動の理解を深め、基本的な考え方を理解するとともに、専門職の概念とその範囲について理解する。また、相談援助支援における権利擁護の意義と範囲について理解することを目標としたい。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	オリエンテーション, 精神保健福祉の原理とは何かを紹介する		
2	障害福祉の理念と歴史的展開, 障害の捉え方		
3	1, 精神障害者福祉の歴史的展開		
4	2, 精神障害者福祉の歴史的展開		
5	精神障害と精神障害者の概念, 制度における「精神障害者」の定義		
6	国際生活機能分類(ICF)と精神障害		
7	精神障害の「障害特性」		
8	精神障害者の理解と支援に係る新たな潮流		
9	1, 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造, 諸外国の排除と歴史		
10	2, 精神障害者の排除と障壁をめぐる歴史と構造, 諸外国の排除と歴史とその後の展開		
11	日本における排除の歴史と構造		
12	1, 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み		
13	2, 日本の社会的障壁をめぐる課題とその克服への取り組み		
14	ケースワークの各アプローチを学ぶ		
15	前期のまとめ		
16	精神障害の生活特性, 精神科医療による生活への影響		
17	精神障害者の家族の置かれている状況		

18	精神障害者の社会生活の実際	
19	メンタルヘルスをめぐる新たな課題	
20	1, 精神保健福祉の原理と理念, 原理が培われた足跡・過程	
21	2, 精神保健福祉の原理と理念, 原理が培われた足跡・過程	
22	精神保健福祉士による実践の価値・原理	
23	精神保健福祉士による実践の視野や視点	
24	援助における関係性	
25	「精神保健福祉士」の役割と機能, 精神保健福祉士法の理解	
26	精神保健福祉士の職業倫理	
27	精神保健福祉士の業務特性と業務指針	
28	精神保健福祉士の職場・職域	
29	精神保健福祉士の業務内容とその特性	
30	後期のまとめ	
	<p>[使用テキスト・参考文献] 最新・精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理 (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験</p>

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名) ソーシャルワークの理論と方法 (精神専門)		授業の種類 講義	授業担当者 山口 泰臣
			実務経験の有無 有
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	後 期	必 修
<p>[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉の相談援助の対象となる分野の理解とそれぞれへのアプローチの方法を学び、ソーシャルワークとはマイクロ・メゾ・マクロ領域へと展開するものである事も理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 現場の精神保健福祉士の方を講師に招き、実際の精神保健福祉分野の精神保健福祉士の活動、そのために必要な知識についての講義を行う。また、グループワークや事例検討などを盛り込みながら学習していく。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 多様化・複雑化する精神保健福祉に係る人々と、地域の保健と福祉の課題およびニーズに気づき、対応できる精神保健福祉士の視点を身につける。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	ソーシャルワークの構成要素		
2	ソーシャルワークの展開過程		
3	精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本視点		
4	マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの基本視点		
5	援助関係の形成技法		
6	ライフサイクルと精神科リハビリテーション		
7	医療機関における精神科リハビリテーションの展開①精神科専門療法 作業療法 レクリエーション療法		
8	医療機関における精神科リハビリテーションの展開②集団精神療法 デイケア・ナイトケア		
9	医療機関における精神科リハビリテーションの展開③行動療法 社会生活技能訓練		
10	医療機関における精神科リハビリテーションの展開④心理教育 家族教育プログラム		
11	医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑤医療機関のアウトリーチ		
12	チーム医療の概要		
13	医療機関における多職種との協働・連携		
14	精神障害者支援の実践モデル①		
15	精神障害者支援の実践モデル②		
16	地域を基盤にしたリハビリテーション①地域ネットワーク		
17	地域を基盤にしたリハビリテーション②アウトリーチ		
18	地域を基盤にしたリハビリテーション③地域生活支援事業と訪問援助		

19	地域を基盤にしたリハビリテーション④セルフヘルプグループ、家族会、ボランティア		
20	ケアマネジメントの概要		
21	精神障害者のケアマネジメント①原則および意義と方法		
22	精神障害者のケアマネジメント②プロセス		
23	精神障害者のケアマネジメント③チームケアとケースカンファレンス		
24	精神障害者のケアマネジメント④社会資源の活用		
25	精神障害者のケアマネジメント⑤具体的事例検討		
26	地域を基盤にした支援 ネットワーキングとコーディネーション		
27	地域を基盤にした支援 事例検討		
28	地域生活支援① 包括的な支援		
29	地域生活支援②ソーシャルワークの様々なアプローチ		
30	スーパービジョンとコンサルテーション		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="181 891 826 1097"> <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門) (中央法規出版)</p> </td> <td data-bbox="826 891 1452 1097"> <p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p> </td> </tr> </table>		<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門) (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・精神保健福祉士養成講座 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門) (中央法規出版)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験</p>		

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
ソーシャルワーク演習(専門)		演習	増谷千晶・野浪実穂 山口泰臣
授業の回数	時間数	配当学年・時期	必修・選択
45回	90時間	通年 (前期・後期)	必修
<p>[授業の目的・ねらい] 精神保健福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について、実践的に習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 支援課題別、対象者別の相談援助事例をとりあげ、具体的なソーシャルワーク場面を想定したグループワーク、ディスカッション、レポート作成などを通しての演習</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] ソーシャルワークに関する知識、技術を習得し、それを概念化し理論化し体系立てていくことができる</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	援助者としての自己理解		
2	多様性への気づき グループワークを通しての学び		
3	記録の技術 実践を通しての学び		
4	個人的ニーズや価値観、援助者として求められる特性		
5	ソーシャルワーカーの視点から生活を理解する 地域アセスメント		
6	価値葛藤への理解 自身の価値観と他者の価値観との相違を識別できる力量を身につける		
7	クライアントを理解する		
8	面接の技術① 面接を取り巻く環境への理解		
9	記録に用いられる文体の理解 事例を通しての実践		
10	コミュニケーション技法の演習 面接技術		
11	事例を通してフェイスシートを作成する 主訴を捉える		
12	ロールプレイ 面接技術の実践		
13	精神科ソーシャルワーカーの実践からの学び		
14	ロールプレイ ソーシャルワーカーとしての実践		
15	精神科医療機関、障害福祉サービス事業所のソーシャルワーカーの役割への理解		
16	ソーシャルワーク実習を通しての個別指導①		
17	ソーシャルワーク実習を通しての個別指導② 精神科におけるレクリエーションを考える		
18	精神保健福祉士が担う権利擁護とは①		
19	精神保健福祉士が担う権利擁護とは②		
20	集団精神療法 精神科デイケアのプログラムへの理解		

21	精神科デイケアにおける精神保健福祉士の役割		
22	多職種連携 精神科ソーシャルワークにおけるチームとは		
23	ロールプレイ チーム会議の実践を通して学ぶ		
24	ソーシャルワーク実習を通しての集団指導①		
25	ソーシャルワーク実習を通しての集団指導②		
26	課題別事例展開の実際① 退院支援		
27	課題別事例展開の実際② 地域移行		
28	課題別事例展開の実際③ サービス等利用計画案の立案		
29	課題別事例展開の実際④ サービス等利用計画案の実践		
30	課題別事例展開の実際⑤ 地域生活支援		
31	課題別事例展開の実際⑥ 地域生活支援		
32	課題別事例展開の実際⑦ 就労・雇用		
33	課題別事例展開の実際⑧ 就労・雇用		
34	ソーシャルワークの対象への理解①		
35	ソーシャルワークの対象への理解②		
36	課題別事例展開の実際⑨ 社会資源の活用と家族関係の調整		
37	課題別事例展開の実際⑩ 社会資源の活用と家族関係の調整		
38	生活ニーズの捉え方とケア計画①		
39	生活ニーズの捉え方とケア計画②		
40	面接技術②		
41	面接技術③		
42	課題別事例展開の実際⑪ ひきこもりへの支援		
43	課題別事例展開の実際⑫ リワーク		
44	ソーシャルワークへの理解① 諸外国		
45	ソーシャルワークへの理解② 日本		
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="188 1742 826 1921"> <p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>特に指定しない。</p> </td> <td data-bbox="826 1742 1455 1921"> <p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>レポート、演習中の活動内容</p> </td> </tr> </table>		<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>特に指定しない。</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>レポート、演習中の活動内容</p>
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>特に指定しない。</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>レポート、演習中の活動内容</p>		

授 業 概 要			
授業のタイトル(科目名)		授業の種類	授業担当者
ソーシャルワーク実習指導		演習	増谷千晶・野浪実穂 山口泰臣
授業の回数	時間数	配当学年・時期	実務経験の有無
45回	90時間	通年(前期・後期)	有
<p>[授業の目的・ねらい] ソーシャルワーク実習の意義について理解し、精神障害者のおかれている現状、その生活の実態や生活上の困難について理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個別指導及び集団指導を通してソーシャルワークに必要な知識技術を具体、実践的に習得する。精神保健福祉士として求められる資質、倫理観、課題把握能力などを養う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)] 専門的知識及び技術を概念化、理論化することによって体系立てて考えていく能力を養う。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数	テーマ・内容 等		
1	精神保健福祉援助実習の概要		
2	実習全体の流れと学習内容		
3	精神保健医療福祉の現状の理解①		
4	精神保健医療福祉の現状の理解②		
5	実習を行う施設・機関・事業所等に関する基本的理解①		
6	実習を行う施設・機関・事業所等に関する基本的理解②		
7	実習を行う施設・機関・事業所等に関する基本的理解③		
8	実習を行う施設・機関・事業所等に関する基本的理解④		
9	医療機関および障害者福祉サービス事業所での現場体験学習および見学実習①		
10	医療機関および障害者福祉サービス事業所での現場体験学習および見学実習②		
11	医療機関および障害者福祉サービス事業所での現場体験学習および見学実習③		
12	医療機関および障害者福祉サービス事業所での現場体験学習および見学実習④		
13	実習生の行動指針①		
14	実習生の行動指針②		
15	実習配属先の理解①		
16	実習配属先の理解②		
17	前期実習計画の作成		
18	前期実習計画についての個別指導①		
19	前期実習計画についての個別指導②		

20	前期実習計画についての個別指導③		
21	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解①		
22	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解②		
23	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解①		
24	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解②		
25	記録法についての理解①		
26	記録法についての理解②		
27	実習日誌への記録内容、記録方法に関する理解①		
28	実習日誌への記録内容、記録方法に関する理解②個別指導		
29	実習生としての心構え		
30	事前訪問について		
31	前期実習後の全体指導		
32	前期実習後の課題の整理のための個別指導①		
33	前期実習後の課題の整理のための個別指導②		
34	前期実習報告書の作成		
35	前期における実習報告会<全体を通しての総括>①		
36	前期における実習報告会<全体を通しての総括>②		
37	後期実習計画の作成		
38	後期実習計画についての個別指導①		
39	後期実習計画についての個別指導②		
40	後期実習計画についての個別指導③		
41	後期実習後の課題の整理のための個別指導①		
42	後期実習後の課題の整理のための個別指導②		
43	後期実習報告書の作成		
44	後期における実習報告会<全体を通しての総括>①		
45	後期における実習報告会<全体を通しての総括>②		
<table border="1"> <tr> <td> [使用テキスト・参考文献] ソーシャルワーク実習のてびき </td> <td> [単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート、実習指導中の活動内容 </td> </tr> </table>		[使用テキスト・参考文献] ソーシャルワーク実習のてびき	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート、実習指導中の活動内容
[使用テキスト・参考文献] ソーシャルワーク実習のてびき	[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) レポート、実習指導中の活動内容		